

知識情報処理技術に関するシンポジウム 「活用されるライフログ」

- 主 催：知識情報処理技術専門委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約70名
- 会 場：主婦会館

概 要

センサや情報ネットワークの普及により、自分の日常生活を電子的に記録してそのデータを再利用するというライフログの個人による実践が容易になってきました。また、クレジットカードや携帯電話やWebなどさまざまなサービスが電子的な基盤の上で営まれており、それらの利用を通じてわれわれの生活行動は否応なくサービス提供者によって電子的に記録されています。こうして、さまざまな形態のライフログの可能性が花開こうとしています。

そこにはさまざまな技術的・社会的・倫理的な課題があります。どのようなデータをいかにして取得し、蓄積されたデータをどうやって何に使うのか、そのデータは誰がどのようにしていかなる資格で管理するのか、誰が受益者で、誰がどのように費用を負担するのか？ 本シンポジウムではこのような問いについての考察を行うため、特別講演とパネルディスカッションを柱として開催されました。

プログラム

○開会の挨拶

橋田浩一 氏（知識情報処理技術委員会委員長・（独）産業技術総合研究所）

○「特別講演 ライフログ・データの処理、検索と活用」

Dr. G.C.De Silva 氏（東京大学）

○「特別講演 ライフログは生き方を変える」

矢野和男 氏（（株）日立製作所）

○「特別講演 ライフログを支える技術と活用の可能性」

小塚宣秀 氏（（株）KDDI研究所）

○「特別講演 ライフログに関連する法制度」

牧野二郎 氏（弁護士）

○「パネル討論：ライフログでやりたいこと」

モデレータ：阿部匡伸 氏（NTTサイバーソリューション研究所）

パネリスト：亀津 敦 氏（（株）野村総合研究所）

Dr. G.C.De Silva 氏（東京大学）

矢野和男 氏（（株）日立製作所）

牧野二郎 氏（弁護士）

小塚宣秀 氏（（株）KDDI研究所）

○閉会の挨拶

橋田浩一 氏（知識情報処理技術委員会委員長・（独）産業技術総合研究所）

